

# 外部評価まとめ

分野1 こども未来

## 施策1 未来を担う生きる力を備えた子どもの育成

No.	各委員からの意見・評価
1	<p>・いじめの認知件数に対する解消率および不登校の児童生徒数は、H28年よりH29年の方が指標の数値が悪化しています。進捗率は93%と高いにも拘らず指標が悪化している理由について、施策評価シートにおいて原因分析をする必要があると思います。</p> <p>・図書館の利用時間が伸びていますが、結果として「読解力」の向上は達成されたのでしょうか。</p> <p>・施策の課題として「学力の二極分化」と「学校間の格差」が記載されていますが、現状の施策でこの課題は解消されている（もしくは解消の方向に向かう）のでしょうか。</p>
2	<p>いじめと不登校生徒数の数は正直驚きですが、きちんと数字で表に出しているのはすごく大事なことだと思います。しかし、増加傾向にあるのに、目標を数を減らすに設定するのは非現実的だし、違うように感じます。数ではなく、発見した際に、きちんと認知して、きちんと支援体制を整えることを目標にすべきだと思います。</p> <p>それから、課題は多くの数字を用いる量的な表現ですが、成果は言葉による定性的な示し方が多く、数値も課題との評価軸が違う数値を用いられているため、評価しづらい。</p> <p>例えば、下記の課題は結果的にどれくらい増減することになったか、把握しづらい</p> <p>課題) 学力テスト正答率は全国平均。成果) 学力テストの正答率は〇〇%上がった？下がった？</p> <p>課題) 学習意欲は4年生から低下。成果) 図書館利用率は増えたとありますが、図書館の利用と学習意欲の向上に直結するか不明な部分がありますので、やはり学習アンケートの結果は〇〇だったと示したほうがよいと思います。</p> <p>課題) 中学校の4つの力すべて基準を下回る。成果) 4つの力すべて〇%上がった</p>
3	<p>図書館利用率が増加することが何の効果につながるのかわかりにくいです。</p>
4	<p>・4つの力の根拠は？また質問項目の優位性はどうか担保しているのか？</p> <p>・4つの力と学ぶ意欲・習慣との相関が見えない。・4つの力と思いやり・かかわりあう心との相関が見えない。</p> <p>・データ分析を大括りなグループ単位で実施するのではなく、子ども一人一人をデータ化し、アダプティブな指導につなげられるようにしていくべき。</p> <p>・校区ごとのディバイドの加速はどうやっているのか？また、それに合わせた施策をどう策定しているのか？</p> <p>・ネットリテラシー教育は親子でやる必要があると考えるが、そこはどうなっているのか？</p> <p>・「保護者を巻き込んだ食育」という施策は大変良い。</p>



### 外部評価（案）

「学ぶ意欲と習慣」や「思いやり・かかわりあう心」を測る「4つの力」がどのような相関関係にあるのか、あるいは図書館利用時間の増加が学習意欲等にどう結びついているのかなど、施策目的と指標の因果関係が不明確な点を指摘したい。

また「いじめの認知件数に対する解消率」と「不登校児童生徒数」は指標が悪化しているため、原因を分析し、効果的な手段とするべきである。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	・実数によるNo.5-②を除き、初年度に基準値を達成し、次年度も横ばいである。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性がある。 ⇒基準値は指標設定時の数値であり、目標値ではありません。基準値よりも目指す矢印の方向に成果が出ることを目指しています。
2	・基準値の「%」は「点」の間違いでは？（1-1-1、1-1-2、1-1-4） ⇒「点」の間違いです。修正します。
3	・不登校の児童生徒数が「病気等のやむを得ない理由に起因する不登校生徒の数」とあるが、「起因しない」の間違いでは？また、基準値220人は5次総スタート時の数字か？ ⇒「起因しない」の間違いです。基準値は、5次総スタート時の数字になります。

施策2 より良い教育のための体制・環境の整備

No.	各委員からの意見・評価
1	<p>・<b>教師力・学校組織力の向上の指標</b>として採用されている指標（第1ステージ初任者達成率など）から、<b>どの程度課題が達成されているのか読み取れません</b>。市民が理解できるような説明が必要だと思います。保護者の立場からしますと、研修に出たことで指導力や学校の組織力が高まったというのは、実感としてわからないのではないかと思います。</p> <p>・食物アレルギーの中には生死にかかわるものもあるため、アレルギー発生を防止するため保護者との十分な情報の共有は当然として、エピペンの使用方法やアレルギーが発生してしまった際の救急医療体制について事前の検討が必要だと思います。また、学校給食（除去食）に万が一にもアレルギー物資が混入しないような体制作りも必要だと思います。</p>
2	<p>No3子どもの安全を確保。進捗率100% = すべて実施したしまいましたが、アレルギー症状が減らずに増えました。その上、今後も事故が怒らない体制づくりを行っていく。。詳細資料を見ると、アレルギーの現状が変わって、今までにないようなアレルギー事例があるため、対応が難しいとありました。そう考えると、<b>目標設定が違うのではないかと</b>思いました。まったく起こらないような体制作りはできないので、起こったアレルギー事故はすべて記録して、新しいものはすぐに他校含めて共有できる体制を作る。同じアレルギー事故が起こらないようにする。このような目標設定のほうよいのでは？</p>
3	<p>学校支援コーディネーター配置は地域のつながりを深めようとしている施策は評価できるが、役割を明確にしないと効果が薄れるのではないでしょうか。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特色とは何か？（柏市の特長？特定校区の特長？）</li> <li>・外部人材の活用と地域の特色を生かすという関係がよくわからない。外部人材とは単に学校外の人材で地域に詳しい人というような意味か？</li> <li>・ものさしの基準値があるべき方向に全く進んでいないのに、進捗率が100%というのは違和感を覚える。これでは「やったけど後は知らん」と言われているように感じる。</li> <li>・<b>コーディネータの満足度という視点は目的とは関係ない。</b></li> <li>・<b>教師の指導力を測る指標は妥当なのか？</b>研修でのスキルレベルの測定はどうやっているのか？</li> <li>・若手教員の指導力向上が喫緊の課題とあるが、まさに重要であると思う。具体的施策につなげてもらいたい。</li> <li>・<b>子供の安全の確保のものさしにアレルギーしかないのは不十分では？</b>施策ではいろいろやっているが、なぜワークシートに出てこないのか。また<b>安全の定義が明確でない。</b></li> <li>・学校施設の適切な整備について進捗率が高いわりに基準値が全く満たされていない。このギャップをいかにして埋めるかが重要で、そのための施策を示すべきでは。</li> </ul>



外部評価（案）

各取組の指標について指摘したい。まず「地域と学校が一体となった教育の推進」は指標と取組進捗の因果関係に疑義があり、「教師力・学校組織力の向上」は指標そのものがわかりづらい。また、「子どもの安全確保」についての取組は、「アレルギー事故」に関する指標だけでなく、防犯や交通安全等の指標設定も検討するべきである。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	<p>・成果として学校支援コーディネーター配置校が増加しているとの記載がありますが、そもそも学校支援コーディネーターは何をする人なのでしょうか。また、配置校が増加したことにより、施策の課題についてどのような面で解決につながるのでしょうか。</p> <p>⇒学校支援コーディネーターは「教育を核とした新しい地域コミュニティを構築するため、地域と学校をつなぐ連絡調整役を担う者」です。これが増加することで、地域の特色を活かした地域ぐるみで子どもを育てる活動が充実し、子どもの教育にとってより良い教育環境が整備されることになります。</p>
2	<p>成果のところ、学校支援コーディネーター配置校は49校→50校に ここは全何校中の50校か示したほうが良いと思います。</p> <p>⇒修正します。</p>
3	<p>No.2が不自然である。①②③④いずれも基準値と達成値が一致している。偶然には思えない。</p> <p>⇒基準値は指標設定時の数値であり、目標値ではないためですが、この取組の指標の場合、平成29年度が最初の設定値（基準値）としたため、数値が一致しています。</p>

施策3 子どもの育ちと子育てを支える環境の充実

No.	各委員からの意見・評価
1	<p>・指標において「指導監査における指摘事項数」の目指すべき向きが減少方向にあります。教育・保育施設数が増加していくのであれば件数は増加していくのが自然ではないでしょうか。仮に、減少していくのであれば、それは指導監査の進め方を再検討する必要があるとも思います。重要なのは、一度指摘した事項が再度繰り返されていないか、改善状況がどうかといった点ではないでしょうか。指摘事項を共有して同様の問題が発生しないように注意喚起するなど、指摘事項は改善のための重要な情報源であるため、<b>単純に件数の減少を目指すのはどうか</b>と思います。</p> <p>・子育てをする親を地域社会で支える、または、ママ友や子供の遊び相手を作るには児童館などの施設が重要ですが、柏市内のすべての地域の人ができる立地ではなく、地域によっては隣接市町村の施設を利用する方が便利な場合があります。例えば、柏の西原地区は場所によっては江戸川台が生活の場となっており、小学校なども越境入学が多いエリアでもあり、流山市の施設を利用することも多いのが現状です。しかし、施設によっては市民ではないため利用できない場合もあります。このような不便を解消するためには、隣接市とも相互に施設の利用を可能にすることを検討することは、投資を抑えるなどコスト面でも有意ではないでしょうか。</p>
2	<p>N02.N03進捗率は97.98%だが、<b>保留者数は増えて、指導監査の指摘数も増えた。</b> このままの内容ですと、<b>この施策はまったく成果なしと見られてしまう。</b> 保留児童数はすぐに解消できないため、まず、全体対象児童数の推移（おそらく増えている）、その中で保留者数は〇〇名で、人数は増えているが%は減ったとか？があると成果に結びつきやすい。また、目標はその数値だけではなく、収容施設を増やすところに設定すべきではないでしょうか。施設数は〇〇個→〇〇個 に増やした といった数字を見せるほうが、伝わると思います。</p>
3	<p>成果の評価に定量的な評価を加えないと、成果がわかりにくいと思いました。 <b>待機児童ゼロを達成は大変評価できると</b>思います。</p>
4	<p>・子育て・子育て・親育ちのための地域づくりの<b>ものさしは良いが、測定がなされていない</b>。こうした測定が細目でない、虐待リスクが高まるのでは？（1-4-3がうまくいっていないのも、こうした観測が十分ではないのかもしれない）</p> <p>・入園希望の児童数が増加の一途をたどっているのに、進捗率98%というのが非常に違和感を感じる。むやみに増やせばいいというものでもないが、数字上不十分に見える事象に対し、進捗率を98%として、事業はうまくいっていると判断する理由を示すべき。</p> <p>・指導監査における指摘事項数を減らすための具体的な施策が見えない。</p>
5	<p>達成値は低いものの、この<b>施策の遂行困難さ</b>を鑑みれば、妥当な結果である。</p>



外部評価（案）

「幼児教育・保育関係施設の整備」は、成果指標の「保留児童」が増加しているため、成果が無いように見えるが、「待機児童ゼロ」の達成といった成果はある。また、教育施設の整備の進展に伴い、成果指標の「指導監査における指摘事項」は増加する。一部の施策では、目的、指標、活動の関連性が見えにくいいため、指標の設定を再考すべきである。

「子育て仲間の有無」については、指標数値を毎年把握すべきである。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	N01 は2年連続「-」 これはどういう意味でしょう? (-について注釈がほしい) ⇒該当年度において, 実績値を測定をおこなっていないことを意味します。No.1は, 市民アンケートによるものであり, 該当年度に実施しておりません。注釈を入れるよう, 修正します。

## 施策4 子ども及び家庭の状況に応じたきめ細かな支援の推進

No.	各委員からの意見・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策3-①の指標「支援対象者から相談を受けた件数」の目指すべき方向が「減少」になっていますが、相談しやすい環境を作ることを目的としていることを考えると、整合しないのではないかと考えます。</li> <li>・施策1の指標で「子供の育てにくさを感じている母親の割合」とありますが、どのような点で育てにくさを感じているのでしょうか。個人的な事情に起因する部分であれば行政として関知するものではないと思いますので、行政が役割を果たすべき点なのかどうかは把握する必要があると思います。</li> </ul>
2	No3.相談受ける件数は劇的な変化ではないですが、支援により改善された家庭の割合は8%増えたことは大きな成果だと思います。
3	配慮が必要な子供および子育て家庭への支援については、成果が評価できます。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケートで子育ての不安がある割合をもっと減らす施策が見えない。不安の具体化が足りないのか？</li> <li>・子育て家庭の負担の軽減のアンケートも毎年取れないのか？</li> <li>・子育て家庭への支援は、支援を必要とする家庭（特に④要保護児童ケース）に対する観測が足りないのでは？</li> </ul>
5	実数によるNo.3-①を除き、初年度に基準値を（一部は大幅に）達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性がある。



### 外部評価（案）

「子どもの育てにくさ」では、どのような「育てにくさ」を感じているのかを分析し、行政が関与できる要因を抽出した上で有効な施策を検討することが必要である。

「配慮が必要な子ども及び子育て家庭への支援」の取組は、目指す方向に変動があるものの基準値より改善している。一方で、「支援者からの相談を受けた件数」の減少を目指すことは、相談しやすい環境を作ることを目的とした場合には相反する。指標の捉え方を整理する必要がある。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	<p>実数によるNo.3-①を除き、初年度に基準値を（一部は大幅に）達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性がある。</p> <p>⇨基準値は指標設定時の数値であり、目標値ではありません。基準値よりも目指す矢印の方向に成果が出ることを目指しています。</p>
2	<p>No3の③と④は、なぜ、29年と30年で大きな差が開いたのか、数値基準が違うのでは？ 数値が間違っていなければ、理由を明確に記したほうが良いと思います。</p> <p>⇨数値の間違いがないか、再度確認し原因追求します。</p>



## 施策1 健康寿命の延伸

No.	各委員からの意見・評価
1	・生活習慣病の発症・重症化の予防として、定期的な健康診断の受診が一定の効果があると思います。人間ドックや健康診断の受診割合はどうなっていますか。また、この割合を指標のひとつに加えてはいかがでしょうか。
2	生活習慣病が認知症の起因、生活習慣病を権限する「生きがい」「やりがい」を見つける地域活動に参加する人が減少する。厳しい状況だと改めて感じます。 数字だけ見ると、この施策はNo1～No4まで、いずれも成果がほとんどなかったように見えます。 成果や今後を見ると、フレイルという概念を普及させるのに力を入れているように見えました。フレイルは3つの要素に構成されていますので、その3つの要素それぞれを強化する取り組みをもっと明確にすべきではないかと思います。 また、20代～50代の働く世代においては、地元で働く人は限られていて、都心に働きに出る方が多い中、職場から整備整えるのは無理があるように感じます。やはり市としてできることは、夜間や週末、住まいになる柏に滞在している時間で運動や健康に繋がる活動をつくってあげることのほうが有効ではないかと思います。
3	「フレイル」の認知度が低いので、普及啓発は高齢者が多く集まる場所（例えば、病院等）を重点的に実施するほうが効果があるのではないのでしょうか。
4	・生活習慣病の発症及び重症化予防の推進のものさしがもう少し多いほうが良いのでは。（あまりにざっくり過ぎ） ・フレイル対策の推進の基準値は%を下げることは難しいと思う。なるべく上げないよう、この調子でお願いしたい。 ・高齢者の社会・地域参加の促進の指標は、「就業している」ではなく、就業者／就業希望者の割合の方が良いのでは。また、ボランティアなどの指標も取り入れ多角的な見直しをする方向性は良いと思う。 ・互いに支えあう健康な地域づくりの推進のイベント参加者数だけでもものさしにしていると、手段が目的化する恐れがある。要介護にならないという視点が必要。



### 外部評価（案）

「生活習慣病の発症・重症化の予防」は、より多岐にわたる取組効果により達成されると考えられるため、健康診断の受診割合や社会参加の割合等も指標として検討が必要である。一方で、イベント参加者等の手段が目的化する恐れがある指標は見直しをすべきである。

また、「フレイル対策」の認知度向上のためには、より効果的な普及啓発が必要と考える。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	<p>実数によるNo.4を除き、初年度に基準値を達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性がある。</p> <p>⇨基準値は指標設定時の数値であり、目標値ではありません。基準値よりも目指す矢印の方向に成果が出ることを目指しています。</p>

## 施策2 医療・介護及び支援体制の充実

No.	各委員からの意見・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果として在宅医療分野において先進的な取組を行い全国に誇れる支援体制を築いたとの記述があるが、多くの市民にそれが伝わっているのでしょうか。</li> <li>・在宅介護や在宅医療に重点を置く方向に見受けられますが、医療機関や老人ホームを望む方もいる（もしくはそうならざるを得ない）方もいらっしゃると思いますので、そちらについても十分な対策が必要と思います。</li> <li>・財政面での負担が多い分野になると思いますので、費用と便益のバランスが重要と思います。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏市の地域包括ケアシステムは外から見てもよくやっているという印象。指標を整理し、施策の効果がちゃんと見えるようにしてほしい。</li> <li>・認知症の方の見守りに対するより高度な施策を検討願いたい。</li> <li>・各種介護サービスの整備・充実は介護人材の確保が取り組みなのに、特養待機者の人数を指標としており、ちぐはぐ。</li> <li>・救急搬送の時間についての指標だが、医療（受け入れ）体制の充実という意味ではある程度あっているが、これがすべてではないので気を付けるべき。逆に、オーバースペックで無駄なことをしていないか心配になる。</li> <li>・医療的ケアが必要な患者や家族等への支援についても相談員の研修受講だけ見ていると、手段が目的化するので要注意。</li> </ul>
3	No.1は「解決件数」でなく「解決割合」で評価すべきである



### 外部評価（案）

柏市の地域包括ケアシステムは全国トップクラスである。成果が明確になるよう指標を整理し、より多くの市民に知らしめるべきである。また、「安心して医療を受けられる体制」は、救急搬送時間の短縮だけで効果を測ろうとすると過剰対応となってしまいうため、注意が必要である。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	<p>サ高住の整備が進んでいくとのことですが、入居したくてもなかなか入れないといった状況はないのでしょうか。</p> <p>☞サ高住は民間サービス提供者であるため、入居の希望が叶えられているかどうかの状況は完全に把握できていません。しかし、サ高住の施設の入居率は100%ではないことから、空き施設はあるという認識です。</p>
2	<p>救急車の適正利用の普及啓発を進めるとともに、いざという時のための意思決定支援を促進するとありますが、具体的な内容は何でしょうか。</p> <p>☞「将来の意思決定能力の低下に備えて、本人やその家族とケア全体の目標や具体的な治療・療養について話し合う過程」の取組です。</p>
3	<p>No1.H28とH29では大きなさが開いている。詳細資料を見ると評価基準が異なる。注釈がほしいですね。</p> <p>☞注釈で対応します。</p>

### 施策3 自立と支えあいの地域福祉の推進

No.	各委員からの意見・評価
1	・障害者支援に対する市の取組について、あまり浸透していないのではないかと思いますので、市民にもっとアナウンスをする必要があるのではないのでしょうか。
2	数字だけ見ると、8人、30人、3人といった極めて少ない人数を基準値にしていますので、この人数のための施策なの？と思われる。基準値の設定方法や掲載する数値を見直したほうが良いのではないかと思います。
3	<p>・障害者の在宅生活を支える生活基盤整備のものさしは解決件数／相談件数と言った割合で見るべきではないか。更に基準値8人が増加する方向が望ましい書きっぷりだが、増えることが本質ではないと感じる。</p> <p>・障害者の自立については良い結果が出ていると思う。この調子でしっかりと支援をしてもらいたい。</p> <p>・相談支援体制の充実についても相談件数が増えることは本質ではない。むしろなくなるの方がハッピー。大事なのは相談の結果を分析することでは？</p> <p>権利擁護体制の充実についても後見支援を受ける人の数を増やすこと自体が本質ではないと思う。そういったことが必要な事案の発見や解決の割合などを増やすことを考えてほしい。</p>



#### 外部評価（案）

障害者支援に関する取組が市民に浸透していない感があり、また指標の基準値に8人、30人という人数が並んでおり、極めて少ない人数を対象にした施策であるような印象を受ける。

取組の内容や地域との連携の具体などについて、より効果的なアナウンスに努めるとともに、評価における指標も相談件数に占める解決件数の割合など、より本質的な尺度を用いることを検討するべきである。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	生活困窮者・被保護者への支援の基準値20%というのは5次総スタート時点の数値なのか？ ☞スタート時点の数値になります。
2	地域との連携の具体的な内容は何でしょうか。 ☞行政だけでは対応できないことを, 地域のNPO等に協力を仰いだ連携を目指しています。
3	初年度に基準値を達成し、右肩上がりで達成値が伸びている。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性ある。とりわけNo.3は初年度に2倍近く達成しているのは、基準値に問題がある。 ☞基準値は指標設定時の数値であり, 目標値ではありません。基準値よりも目指す矢印の方向に成果が出ることを目指しています。

施策1 魅力・吸引力の維持・強化

No.	各委員からの意見・評価
1	<p>・事務事業の進捗度をはかる指標として、会議の出席回数や協議回数を使用しているものが散見されますが、会議などの出席や開催の回数と進捗度が比例しているのかどうかについて、再度検討の必要があるかと思えます。</p> <p>・そごうが撤退して2年経過しているがいまだに空きビルのままであり、<b>柏駅の周辺地域の吸引力低下の象徴となっているため、早急に将来像を示すことが必要</b>と思われます。利害関係者が多数のため難しいと思いますが、「今後」のなかに「いつまでに」といった観点が入れられないでしょうか。</p>
2	<p><b>柏そごうの跡地の開発は魅力・吸引力の大きな起爆材になる</b>のではないのでしょうか。インターネットの検索でも柏そごうは廃墟になっているという内容がすぐにでており、魅力ある柏のマイナスイメージと思えます。</p>
3	<p>・<b>中心市街地実現の取組み進捗率100%に対して、成果がパツとしない</b>。自己評価での分析もあるが、<b>商業施設の売上変動調査なども測定し、もっとテコ入れできないか</b>。</p> <p>・<b>北部地域の人口は着実の伸びており</b>、街づくりとしては一定の成果が出ていると評価できるが、駅から少し離れると、寂しく、治安上も良くない。一層の人流解析など、<b>テコ入れが必要</b>と考える。</p> <p>・<b>道の駅しようなんは成功しており、順調だと評価できる</b>（個人的に視察した）。駐車場が狭く、使い勝手が若干悪い。<b>民間委託も含め、さらなる成功への道筋を早めにつけたい</b>。</p>
4	<p>いずれも重要な指標である。同格の他都市を参考に、<b>もっと多様な指標を開発し、もっと高い基準を設定すべき</b>である。</p>
5	<p>・取組1について⇒<b>中心市街地の魅力向上は重要な課題と認識している</b>。1 2事業全体で、<b>100%の進捗率とあるが、歩行者通行量は、そごう閉店後明らかに減少しており、設定した目標に問題なかったを検討すべき</b>である。また、街区ごとに通行量が増加しているところ、減少しているところがあるので、検証すべきである。</p> <p>・事務事業における目標設定について⇒12事業のうち8事業が、協議の場を実施するとなっているが、何を目的に協議し、その結果がどうなったのが重要で、回数を目標値にすることに違和感がある。目標の見直しも含め再度検討願いたい。</p> <p>・<b>柏セントラルグランドデザイン</b>について⇒振り返りにあるように、公・民・学が連携してまちの将来像と取組方針を示したことは、大きな成果と考える。一方で、このグランドデザインを多くの市民に伝えることと、利害関係人がこのグランドデザインを共有し、<b>実現に向けたロードマップを示すことがより重要</b>となる。</p> <p>・<b>取組2</b>について⇒目的の定住人口の増加は、成果があがっているが、<b>就業人口の増加に対する具体策が事務事業の項目に無い</b>。施策3-2の誘致活動と合わせて具体化を進めて欲しい。</p>
6	<p>・<b>北部地域の魅力創出・向上の評価指標に定住人口を用いているが、現時点でこの指標が増えるのは当然</b>と思う。将来、<b>市全体の人口減少が始まったときでも、地域の人口減をいとめる魅力が必要</b>なのであり、それがわかる指標が必要ではないか。</p> <p>・<b>手賀沼周辺観光客減少の解消策を、周辺地域の改善だけに頼るのではなく、もっと広域的視野で考える必要がある</b>のではないかと。例えば、広域のサイクリングロード・ランニングコースを整備することで、近年増えつつあるスポーツサイクル愛好家やランナーを手賀沼にも呼び込めるのではないかと。これらは、健康サポート分野とも連携できるはず。</p>
7	<p>そごうの後に何もなく何年も経ち始めているので、パレット柏のようなコミュニティの場所や市民プールなどがあるとよいと思いました。</p>



外部評価（案）

そごう撤退により中心市街地の吸引力が大きく低下しているため、早期に跡地利用のビジョンを示すことが必要である。また、活動の進捗率は100%であるが、歩行者通行量等の現状をを踏まえると、中心市街地の売上等を調査し、更なる取組も必要である。

北部地域の定住人口の増加は当然のことと言える。住宅供給が止まった後も人口減少を食い止められるような魅力づくりと、その効果を検証できる指標が必要である。

手賀沼エリアについては、周辺整備だけでなく、サイクリングロードやランニングロード等を活用した広域的視点での取組が必要である。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	<p>•取組2において定住人口の増加は結果としてでていますが、就業人口の方はどうなのでしょうか。(指標名には定住人口しかないように見えます。)</p> <p>☞ 柏市在住の就労人口です。</p> <p>平成23年度国勢調査 188,536人。 平成27年度国勢調査 189,003人。</p>



施策2 魅力ある産業の活躍

No.	各委員からの意見・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組1で「付加価値の高い産業」とありますが、具体的にどのような業種を想定しているのでしょうか。工業用地の問題が提起されていますが、大規模用地を必要とする業種（例えば製造業や物流倉庫など）を想定しているのでしょうか。</li> <li>・企業誘致には近隣自治体との競争という面があると思いますが、企業にとって税金・補助金など資金に係る優遇策は重要なポイントかと思えます。企業誘致について税金面での優遇は検討されていますか。</li> <li>・取組2などは、市役所が中心となってやるよりも、商工会議所などが中心となってやる方がよいのではないのでしょうか。</li> <li>・創業後に多くの企業が事業継続できない状況になることから、創業だけでなく創業後間もない企業についても税制面や補助金などの支援策が必要ではないのでしょうか。</li> <li>・安全で新鮮な農作物に対する需要は高いことから、農業所得の増加や農業経営の安定化には地産地消を進めていくことが重要と考えます。これを推進することは3-1の目的にもかなうものではないのでしょうか。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の創業については、土業の支援などの充実やそのPRが重要。そういった施策をしっかりと打っていただきたい。</li> <li>・農業の出荷額増加は喜ばしい。柏産のブランド向上のイメージ戦略もより強化すると良いと思う。</li> <li>・就業支援の成果数減少は、自発的無職の減少によるものであれば喜ばしいことであり、これも増えること自体が本質ではないので、自己評価としても問題は無いと思う。働く意欲の無いものに対する意欲向上施策を進めてほしい。</li> </ul>
3	<p>いずれも重要な指標である。同格の他都市を参考に、もっと多様な指標を開発し、もっと高い基準を設定すべきである。とりわけ農業施策の指標が出荷額だけであるのは寂しい。自給率など指標を工夫されたい。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致について⇒企業誘致は時間がかかり、単年度で成果を挙げづらいものである。現在、北部地区で計画されているA I拠点へ積極的に関与し、産総研等関連機関との連携をこれまで以上に行うことを期待する。</li> <li>・創業支援について⇒ふりかえりの懸案に創業件数の伸び悩みが指摘されている。件数も重要だが、創業しアークステージにある事業者が着実に事業継続をしていく環境づくり、支援も重要である。両方の視点での対応を検討願いたい。</li> <li>・取組5の商店街等の維持は、補助金等による支援も不可欠だが、施策1の街の魅力・吸引力の維持・強化と密接に関係している。関連部局間で、十分な連携を図ってほしい。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産総研や東大・千葉大と連携して、ビッグデータを活用した実証実験を進め、そのオープンデータを柏市が管理してはどうか。（バルセロナ市、サンタンデル市などがすでに実施）</li> <li>・上記のビッグデータを柏市から企業に提供（一部有償）することで、企業誘致や起業に役立てることができないか。</li> </ul>
6	<p>有機野菜⇒【柏のかぶ】みたいなブランド化をして地産地消を進めていくなど</p>



外部評価（案）

企業誘致における「高付加価値」の定義を明確にすべきである。また、研究機関が集積する「地の利」を活かし、東大や千葉大、産総研と連携して、ビッグデータを活用した誘致等も検討すべきである。

創業支援については、創業までの期間に留まらず、創業後の事業継続のため一定の支援とそのPRが必要である。

安全安心な農作物の需要は高い。ブランドイメージの強化に努めるとともに、評価指標に出荷額だけでなく自給率や農業者の所得等の要素を加えることを検討すべきである。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	<p>農商工等の連携の具体的な内容は何でしょうか。</p> <p>☞ 柏産農産物のPR, 柏ブランドの構築による地産地消の推進を目的とし, 農商工38団体による「アグリ・コミュニケーションかしま委員会」を平成24年に発足しました。この委員会では, 月1回の会議や農家ツアー, 地産地消PR (年4回+冊子), 地産地消を推進する事業への助成金, PRイベントなどを実施しています。</p>
2	<p>・企業誘致の件数基準値が0件というのは5次総スタート時点の数字なのか？</p> <p>☞ 五次総合計画のスタート時点の数字になります。この指標においては, 企業誘致を行っていなかったため, ゼロとなります。</p>

## 施策1 地域への参加と活動の促進

No.	各委員からの意見・評価
1	・町会加入率の加入促進に努めるとありますが、具体的にどのような策を具体的に記載すべきと考えます。
2	今後の施策が具体的にでないためわかりにくいです。
3	・地域コミュニティの活性化は一定の成果が出ていると評価できる。未来を担う子どもたちの参画も促す施策に期待したい。 ・官民共同での活動や情報共有も、子どものうちから参画意識を付けさせることが重要。デジタル技術などの積極的活用で、新たな試みを期待する。
4	初年度に基準値を達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性もある。そもそも、もっといろいろな指標を開発してほしい。それ自体が「地域のちから」の発見につながるから。



### 外部評価（案）

地域活動の活性化については、指標値の上昇から一定の成果があった評価できるものの、町会加入の促進ほか、今後に向けた方策に具体性がない。地域活動の担い手をいかに確保していくか、子どもたちの参画をどのように促していくか、具体的な方策の展開が必要である。

施策2 多様な人々が連携・分担する地域社会の形成

No.	各委員からの意見・評価
1	・大学コンソーシアム東葛の活動を拝見しましたが、この活動はこの施策の目的を達成するためにどのように活かしていくのでしょうか。「連携」や「情報共有」とありますが、具体的な活用方法について検討が必要かと思ひます。
2	外国人に対する施策では、事業への参加者は増加しているが、ネットワーク体制が不十分で、今後は多言語メールの登録者拡大の施策を展開とありました。手法がメールかどうか、内容はどんなものが良いか、まず外国人が利用するツールや必要とする内容を把握することが先に必要なのではないかと思ひます。 メールよりもSNS使う人が多いかもしれませんし、内容も市民活動情報よりも基本的な生活情報が必要かもしれませんし、2020年オリンピック時の外国人増加に向けて、再度発信ツールと内容を確認する必要があるかと思ひます。それを明確にする上で取り組むべきです。
3	・行政と大学の連携事業の具体例を例示してもらいたい。(意味のある連携かどうかの評価ができない) ・国際交流センターの事業への参加者数を指標とするのは良いが、追跡調査が欲しい。困ってないか・溶け込めているかといった事後評価が重要では？ ・女性の管理職の割合を指標にするのは適していないかもしれない(男性でも同じ)。最近では管理職を辞退するケースも多いと聞く。本当にやりたい仕事をしている可能性を無視することになり、また社会的ステータスを管理職というレベルに固定するのは、時代感覚にそもそもあってないと感じる。
4	初年度に基準値を達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性もある。そもそも、もっといろいろな指標を開発してほしい。それ自体が「地域のちから」の発見につながるから。
5	・大学コンソーシアム東葛が活発に機能しているという実感が大学側(少なくとも千葉大学)にはない。各年度1回の会議開催で進捗率100%というのは目標値が甘いのではないか。 ・男女共同参画意識の向上の指標が、会議や講座等の開催数になっている。これだと市側の自己満足に終わってしまう懸念がある。実際に市民の意識が向上したことがわかる指標はないか。(資料2, P.25)



外部評価(案)

多様な人々の「意味ある連携」の有無が取組のカギである。

「大学コンソーシアム東葛」の活動が活発であるとは言い難い。また、連携事業がどのように貢献しているのか効果が不明である。

国際化については、事業への参加者数が指標となっているが、その後地域に溶け込んでいるかどうか、困りごとはないかどうかの追跡も必要である。

男女共同参画は、女性管理職割合のほか事務事業ベースでは講座開催数が指標となっているが、市民の意識に関する指標も必要である。

### 施策3 地域や社会の課題に対応した生涯学習の推進

No.	各委員からの意見・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の課題は地域で解決するべく、住民自身が学習を通じて地域活動に参画することが必要」とありますが、そもそもその様な意識を持っている市民は「意識の高い市民」であり、平均的な市民像からは離れているように思えます。</li> <li>・「生涯学習」は、個人個人の意思で行われるものですので、行政が旗振り役になる必要はないのではと思います。</li> </ul>
2	市が提供する生涯学習の目的を地域づくりを中心にするには問題ないと思いますが、 <b>誰もが参加したくなるような企画や周知の検討</b> をお願いいたします。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>生涯学習講座受講者の活動実践率という観点は大変良い</b>。具体的にどういった学習をし、どうつなげたのか事例が欲しい。また、若い世代への啓発活動を進めてもらいたい。</li> <li>・<b>図書館ボランティアを増やすことが本質ではなく、知の集積地たる図書館をいかに有効に活用するか、活性化するかを指標とすべき</b>で取り組みの内容含め見直すべきではないか。</li> </ul>
4	初年度に基準値を達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性もある。そもそも、もっといろいろな指標を開発してほしい。それ自体が「地域のちから」の発見につながるから。
5	・地域課題解決のためには、 <b>一方的な座学ではないPBL型（課題解決型）プログラムを増やすことが有効</b> である。受講者数の他に、PBL型講座の数も今後は指標に入れてはどうか。



#### 外部評価（案）

地域や社会の課題に対応した学習の支援という着眼点は良いが、意識を持った一部の市民だけでなく、誰もが気軽に参加したくなるような企画やPBL型（課題解決型）プログラムを増やすなどの工夫が必要である。また、図書館の推進は「知の集積地」としていかに活用するかが本質である点を指摘する。

## 施策4 誇りの持てる文化の醸成

No.	各委員からの意見・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「柏らしい文化活動の発展」とありますが、「柏らしい文化活動」とは何でしょうか。</li> <li>・多くの施策を限られた人員と予算で行う中で、この施策の優先性は高いのでしょうか。京都や奈良、金沢などといった都市であれば「文化」は大きな資源となりますが、若い人口を増やしていくことを考えた場合、優先性はあまり感じることは出来ません。</li> </ul>
3	「音楽、吹奏楽の街」のイメージを定着させるには、市立柏高校を中心とするだけでは弱いのではないのでしょうか。より魅力的なイベント等が開催されないとイメージは浸透しにくいと思います。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏の文化活動の認知について市外調査はしないのか？（目的には市内外とある）また、市民の認知度が低いのは柏ブランドがまだまだできていないことを示しているので、文化と産業の両輪で更なる推進を期待する。</li> <li>・文化財の保護などの施策も子どもから親しんでもらうことが重要。また、郷土資料館の入場者数だけでなく、保護担い手の育成に関する施策を推進してもらいたい。</li> </ul>
5	初年度に基準値を達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性はある。そもそも、もっといろいろな指標を開発してほしい。それ自体が「地域のちから」の発見につながるから。



## 外部評価（案）

京都、奈良といった文化都市と違い、文化資産に恵まれているとは言えない。「柏らしい文化活動」の定義を明確にし、まちづくりにどのように寄与するのかといった視点で必要性を打ち出すことが必要である。

「音楽の街」を定着させるのであれば、市立柏高校吹奏楽部関連の取組だけではインパクトがない。また、この分野の成果を測るためには、目的に掲げた市内外の認知度を調査することも必要である。

## 施策5 スポーツを愛するまちの実現

No.	各委員からの意見・評価
1	・健康・体力づくりの推進は、スポーツを愛する街づくりの実現よりは生活習慣病などを防止し、高齢化による医療費を抑制するという目的の方が強く感じます。 <b>中高年の運動機会を増加させるには、トップアスリートの講習会はいささかハードルが高く、それよりはスポーツクラブの市民割引といったようなものの方が効果を測定しやすいのではないのでしょうか。</b>
2	ラグビーの誘致は成果に入れてもいいのでは？ また、2020年のオリンピックに柏市はどのように関わりを作っていくか、このあたりも「今後」で触れたほうがよいと思います。
3	世代やスポーツ習慣を考慮したスポーツを推進する手段として、「 <b>トップアスリートによる講習会</b> 」が主となっていますが、イベントとしての魅力はあるものの、 <b>スポーツ習慣を身につける人を増やす取組としては適していないと感じました。</b>
4	・ <b>スポーツの普及と健康増進は一体として扱い、指標もセットで考えたほうが良い。</b> また、アンケートも年1回実施し、評価しないと、十分ではない。 ・スポーツイベントの開催は大変だと思うが、市民参画の共同プロジェクトとして指標にしやすいので、色々案を出していてもらいたい。 ・スポーツをする場の確保は、回数だけだと偏った人の延べ回数になる恐れがある。 <b>市民の行動変容がどのように起きているのかを別の視点でセンシングする必要がある。</b>
5	初年度に基準値を達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性はある。そもそも、もっといろいろな指標を開発してほしい。それ自体が「地域のちから」の発見につながるから。



## 外部評価（案）

スポーツ施策は、地域振興と健康づくり、双方の視点を持って展開する必要がある。また、市民の意識変容ひいては行動変容につながる方策の実施が重要である。

トップアスリート講習会は、スポーツになじみの薄い人や中高年にとって高いハードルであると感じる。より多くの方が気軽にスポーツ習慣を身につけられるような方策を実施する必要がある。



## 施策6 柏ブランドイメージの構築

No.	各委員からの意見・評価
1	<p>・手賀沼の観光資源とありますが、観光客として想定される対象はどの辺になるのでしょうか。私のイメージでは、近隣の住民が休みの日に近場で楽しむ場所というものであり、遠方（海外なども含みます）の方がわざわざ手賀沼に来るというイメージはありません。重点事業にインバウンド対策とありますが、外国人観光客の方は多いのでしょうか。</p> <p>・教育や子育て、高齢者支援等の施策を重点化しているとありますが、具体的に他の市町村と比較して柏市が売りとなる部分(他と差別化できる部分)がわかるように情報発信をすることはできないでしょうか。</p>
3	<p>柏のブランドイメージを構築することは大切ですが、市役所の各課の中での連携は取れているのでしょうか。「音楽、吹奏楽の街」や「教育」、「子育て」等、様々なイメージがあげられており、横ぐしがさされていないように見えます。柏の本当の強みは何か、何を求められている等、連携された再考をお願いしたです。</p>
4	<p>・そごうもなくなり、柏が廃れているイメージが強い。もっとポジティブなイメージが出ていくよう、PR戦略を検討してもらいたい。</p>
5	<p>初年度に基準値を達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性はある。そもそも、もっといろいろな指標を開発してほしい。それ自体が「地域のちから」の発見につながるから。</p>
6	<p>・4-4, 4-5とも共通するが、個々の事業は一定の成果を挙げているが、全体としての統一感、これが「かしわ」だといふものが感じられない。また、全体像を把握している組織も無い。併せて、市内、市外に対しての発信力に不足を感じる。様々な媒体を通じて、柏の魅力を発信して欲しい。</p>



### 外部評価（案）

柏市の「本当の強み」を効果的に発信することが肝要である。現状は、教育・子育て・地域包括ケア・音楽・スポーツなど多くの分野においてPRがなされているが、これらに横串が刺さっておらず、うまく連携できていないように感じられる。また、発信力が弱いと感じる。

様々な媒体を通して、他市との差別化が可能な「柏のウリ」を発信することが必要である。



施策1 豊かな自然環境づくり

No.	各委員からの意見・評価
1	・施策の課題で手賀沼の水質について触れているが、重点事業や成果については特に触れられていない。 <b>観光資源として手賀沼を考えるのであれば、水質の浄化について啓発活動だけでは足りないのではないのでしょうか。</b> （例えば、ベンチャー企業の育成とからめて、水質浄化に関連した企業の誘致などを検討してみるなど。）
2	・ <b>緑や水辺空間の保全</b> は施策がうまく機能していると評価できる。引き続きしっかりとした保全をお願いする。
3	<b>取り組みも指標も一つしかない。柏市は環境未来都市であるのに、これは問題だ。</b>
4	・街路樹の新設の際、 <b>維持管理費用がかさむという理由だけで、樹木の間隔を広げて本数を減らす</b> ことがあり、この施策の意図とは反する結果になることがある。また、調整池もコンクリート壁に囲まれたものが多く、景観上好ましくない。維持管理は重要事項であるが、豊かな自然環境を売りにする柏市だからこそ、総合的に判断してほしい。 <b>民間には緑化を薦めているが、市が積極的に緑化を行っているとは言えないのではないか。</b>



外部評価（案）

施策は順調に進展しているが、「環境未来都市」を掲げた都市あることを踏まえると、「豊かな自然環境づくりに」関する取組が少ない。

街路樹の整備や調整池の緑化等はコストが高む面があるが、行政だけでなく、市民や民間事業者とともに、緑地や水辺空間の保全するのであれば、牽引役となって積極的に緑化に取り組むことも必要である。

また、施策の課題で手賀沼に触れているが、分野4では観光資源として捉えているため、水質浄化の啓発にとどまることなく、分野を横断した取組として、手賀沼の豊かな自然環境を活かす方策を幅広く検討すべきである。

## 施策2 環境負荷の低減

No.	各委員からの意見・評価
1	・事業者へごみを減量することが企業経営にプラスに働くことを理解できるようなアプローチが必要ではないかと考えます。エコハウスに対する補助と同様に、中小零細事業者に対する補助も検討されてはいかがでしょうか。
2	エネルギー使用量の見える化による効果は測れるのでしょうか。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低炭素化については業務系への対策が不十分との自己評価の通り、啓発活動をしっかりとお願いしたい。</li> <li>・大気・水質・土壌等汚染の防止のものさしが、事業者の指導の成果に直結したものになってない印象を受ける。事業者の成果についての見える化が必要ではないか。</li> <li>・ごみ処理体制の充実について、最終処分場への排出量は取組と整合性が取れていない。この数値はむしろごみの排出抑制の方の評価値ではないのか？</li> <li>・ごみの排出抑制は施策が一定の成果を出しているようなので良いと思う。なぜ減らされているのか(うまくいっているのか)の分析があるととても良い。</li> </ul>
4	No.1のCO2排出量の測定値をぜひ見たい。
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコハウスへの補助だけでなく、再生可能エネルギーを積極的に取り入れる民間事業者への優遇措置などが考えられないか。(特に北部地区)</li> <li>・柏らしい再生可能エネルギー(例えばソーラーシェアリング、植物残渣を使ったバイオガス発電など)への助成が考えられないか。</li> </ul>



### 外部評価(案)

低炭素化とごみの排出抑制のいずれについても民間事業者へのインセンティブが必要と考える。  
 ごみの排出抑制は一定の成果を上げているが、「大気・水質・土壌等汚染の防止」と「適性なごみ処理の維持・改善」については、より目標達成がわかりやすい指標設定を検討すべきである。

### 施策3 魅力あふれる都市空間の創出

No.	各委員からの意見・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題には1人あたりのオープンスペースが10㎡が未達成と記載されているが、基準値は8.08㎡となっているのは何故でしょうか。また、この基準値は何を根拠に出されたのでしょうか。</li> <li>・施策の成果をはかる指標として緑のオープンスペースの面積（全体と1人あたり）が採用されていますが、<b>面積だけで課題の成果をはかることができるのでしょうか。</b></li> <li>・<b>空き家対策</b>については事業・成果に記載がありませんが、<b>今後の方針はどうなっていますか。</b></li> <li>・成果の基準値が、バリアフリー・住環境とも低すぎるような気がしますがいかがでしょうか。基準値は達成度合いを確認するベンチマークになりますので、基準値の算出根拠についても明確にしておく方がよろしいかと思ます。</li> </ul>
2	<p>空家は全国的な問題となっておりますが、<b>課題で空家の増加についてはどのような対策をお考えでしょうか。</b></p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>オープンスペースの充実化</b>では、<b>利用のされ方</b>をPRすることが大事だと思う。</li> <li>・住環境整備について、<b>空き家対策</b>は非常に難しいが、<b>景観維持・安全対策の観点からも重要</b>。引き続き努力をお願いしたい。</li> <li>・都市空間づくりについて柏の葉は非常に良い場となっている。民間とも協力しうまく進めていってほしい。</li> </ul>
4	<p>初年度に基準値を達成している。指標自体または基準値が不適當の可能性ある。 もっといろいろな指標を発見、開発してほしい。それ自体が「都市空間の魅力」になるから。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組3について⇒柏らしい景観を生かした～とあるが、「<b>柏らしい</b>」の定義が曖昧では、具体策が見えてこない。景観協定のコメントもあるが、個別の事務事業から、柏らしさは読み取れない。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に<b>木陰をつくりベンチを置く</b>などして、<b>市民の滞留・交流を誘発するオープンスペース</b>をつくることが重要である。維持管理が大変という理由だけで、木陰をつくらないようにしているように思える。<b>魅力あるオープンスペースが増えるほど、歩いたり自転車に乗ることが楽しくなり、結果として健康増進、スポーツ振興にも繋がっていく。</b></li> </ul>



#### 外部評価（案）

オープンスペースの充実化については、面積の確保だけでなく、木陰の創出による滞留・交流の誘発や歩いたり自転車に乗ったりすることの楽しさなど、利用面での評価も必要である。

景観については「柏らしさ」の定義を明確にして取り組むべきである。

社会問題化している「空家」は、都市空間や住環境に悪影響を及ぼすため、取組と指標設定が必要である。

## 施策4 安全・円滑な交通環境の確保

No.	各委員からの意見・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた予算のなかで優先順位をつけて事業を行う必要があると思いますが、その点から考えた時に取組数(事業数)は多くないでしょうか。よりのを絞ってもいいのではないかと思います。</li> <li>・<b>高齢化が進展</b>していくなかで高齢者が加害者又は被害者となる事故が増加することが見込まれており、免許返上の議論なども踏まえると<b>公共交通機関の充実は非常に重要</b>と考えます。</li> </ul>
2	<p>鉄道駅ホームにおけるホームドア設置については、難しいと思いますが、鉄道を通勤で利用している立場からも実現していただきたいです。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>公共交通の利便性に関し、アクセシビリティの向上という観点が弱い</b>と感じる。こういうところで<b>市民目線を見せてほしい</b>。アクセシビリティについてはラストワンマイルの対策を進めてはどうか。</li> <li>・自転車利用環境において、放置自転車対策は大変良い。景観維持にも一役買っていると思われる。</li> <li>・<b>道路網の構築については事故の減少数や渋滞解消といった定量的評価を増やしてもらいたい</b>。</li> <li>・道路の適正な維持については予算の限られる中で苦労も多いと思うが、優先順位をよく吟味し、引き続きしっかりお願いしたい。</li> <li>・交通安全について、高校生の自転車に乗りながらのスマホ・ヘッドフォンの指導・取り締まりを強化すべき。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>自転車通行路の整備</b>にあたって、優先して工事を進める箇所を決めるのは良いが、できるだけ長い距離の通行路となるように配慮したほうが良い。<b>長い距離のサイクリングが安全にできる通行路</b>があるだけで、自転車による来街者が増加する。</li> </ul>



### 外部評価（案）

今後、市内の高齢化進展を考慮すると公共交通の充実が重要課題である。そのことから公共交通の利便性向上の評価には、市民目線のアクセシビリティ向上（運行本数や路線長、運賃など）といった指標も用いるべきである。

また、道路網整備は事故件数や渋滞解消などの定量評価に努めるとともに、自転車の利用に配慮した整備が必要である。

## 施策4 安全・円滑な交通環境の確保

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	○初年度に基準値を達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性がある。 ☞基準値は指標設定時の数値であり、目標値ではないためです。

## 施策5 排水対策の推進

No.	各委員からの意見・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり推進のためにアンケートが、「下水道（污水管）についてどう思いますか」という質問に対して、満足度を調査する形式になっています。個人的に、自分の住んでいる地区に下水道があるかどうかはわかりますが、それに対して特に満足を感じることはなく、アンケートとして<b>意味のあるものか疑問</b>に感じます。</li> <li>・経費回収率100%を下回ることは事業継続に問題が生じるため、合理化によるコスト削減と徴収率アップが重要と考えます。</li> </ul>
2	日本各地で未曾有の自然災害に水害が報じられているので、 <b>雨水管の整備は緊急の課題</b> とされます。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>排水対策</b>は一定の成果が出ていると評価できる。<b>粘り強く進めてほしい。</b></li> <li>・<b>雨水対策</b>については近年の異常気象を鑑み、<b>早急に整備計画の見直しをすべき</b>と考える。</li> <li>・下水道経営について、収納率を上げることは当然重要だが、費用対効果がマイナスにならないよう、知恵を絞って進めてもらいたい。</li> </ul>



## 外部評価（案）

排水対策は一定の成果を上げているものと評価したい。一方で、近年多発する気象災害に鑑み、更なる推進が必要である。

なお、「まちづくり推進のための調査」の下水道に関する設問は、質問内容を再考すべきである。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	<p>○成果指標について, 初年度に基準値を達成している。既存値の追認など, 指標自体または基準値が不適當の可能性ある。</p> <p>☞基準値は指標設定時の数値であり, 目標値ではないためです。</p>

## 施策6 安定した水道水の供給

No.	各委員からの意見・評価
1	・アンケートについて5-5と同様です。
2	地震等の災害に備え、引き続き、水道水確保をお願いいたします。
3	・水道施設の整備については、今後急速に劣化すると予想されるので、早急な対応をお願いしたい。 ・水の確保は水源を押さえるだけでなく、災害時のことを鑑み、冗長化も予算が許す限り進めてほしい。
4	No.2平均自己水源量は興味深い



## 外部評価（案）

老朽管の更新については、急速な劣化と災害リスクを念頭に置き、取組を加速させる必要がある。  
なお、「まちづくり推進のための調査」の上水道に関する設問は、質問内容を再考すべきである。



## 施策1 防災力の向上

No.	各委員からの意見・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織率やK-Net活動率は基準値を超えているが、これらの活動主体は町会など地域組織によるものであり、町会加入率が低下傾向にあることを考えると、4-1の取組が重要となると考えます。</li> <li>・柏市でもはずれの方の地区は隣接市の避難所の方が近いことがあるため、隣接市町村との乗り入れを検討すべきではないかと考えます。例えば、私の住む西原一丁目は町内会の小学生はみな越境入学で流山の小学校に通学しており、避難場所もそちらの方が実態に合っています。</li> </ul>
2	<p>火災件数は減ったものの、年間80件起き、更に過去の前例のない想定外の災害も発生している。</p> <p><b>火災報知器は、古い住宅が多い市街地では設置率が低いとありましたので、その当たりの対策をもう少し明確に記載する必要があると思います。</b></p>
3	<p>災害発生時の応急的避難については、地域企業とのさらなる連携をお願いいたします。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災力の向上は一定の成果が出ていると評価できる。継続的な官民共同活動を進めてほしい。</li> <li>・災害に備えた体制の強化も様々な施策がなされているが、<b>ものさしに井戸だけを載せるのではなく、情報網の整備や医療との連携など、災害時の一連の流れに沿った指標を示すべき。</b></li> <li>・火災予防については引き続きしっかりお願いしたい。また、高齢者の世帯に対しては啓発を強化してもらいたい。</li> <li>・消防車の到着遅れについて課題を整理し、道路整備課などとも連携を図った施策に取り組んでもらいたい。</li> </ul>



### 外部評価（案）

「地域防災力の向上」は、一定の成果を上げているものと評価したい。活動主体である町会の加入率を増加させる取組は重要であるが、「災害に備えた体制強化」では、「井戸の改修」だけでなく、情報網の整備や医療との連携等の取り組んでいる事業の指標も検討すべきである。

また「火災予防の強化」では、2年間のふりかえり（懸案）を踏まえ、火災報知器設置率の向上等の取組も検討すべきである。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	○初年度に基準値を達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性がある。 ☞基準値は指標設定時の数値であり、目標値ではないためです。

## 施策2 健康被害の防止と安全の確保

No.	各委員からの意見・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組が多すぎるように思われます。限られたリソースで行うため、もう少し絞った方がよいのではないのでしょうか。</li> <li>・ペットに関する事項は個々の飼い主の問題であり、重要課題として行政が手がける意味は薄いのではないのでしょうか。むしろ、ペット事業で収益を得ているペット業界などが適していると思います。</li> </ul>
2	<p>救急需要は今後も増加傾向にある中、今後の対策として「救命講習等の応急手当普及啓発を進める」だけでよいのでしょうか？ 不要不急ではなく、必要な救急需要も増えていくはず、そこに対する設備や人的な整備を整える対策も必要だと思います。そういう対策もあるなら、記載してほしい。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車についても消防車と同様、縦割りにならぬよう他部署との連携も含めた施策を進めてもらいたい。</li> <li>・健康危機に対する備えについて、市民への情報提供についての取組が見えない。</li> <li>・食品・環境衛生対策は確実な成果が出ていると評価する。</li> <li>・感染症対策については啓発稼働と情報提供がうまく結びつくように強化を図ってもらいたい。</li> <li>・収容動物の救命率が上がっていることは高く評価したい。</li> </ul>



### 外部評価（案）

多岐にわたる事業が展開されているが、経営資源が限られているため、選択と集中を行って成果を上げていくことも必要と考える。

個別の取組では、収容動物の救命率が改善している点を評価したいが、行政だけで取り組むのではなく、関係業界等に一定の負担を求めることも検討すべきである。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	○初年度に基準値を達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性がある。 ☞基準値は指標設定時の数値であり、目標値ではないためです。

### 施策3 防犯力の向上

No.	各委員からの意見・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標として柏市内の刑法犯認知件数をあげているが、人口が増加していることを考えると件数自体が減少することは難しいと思いますので、1人あたりの件数にしてはいかがでしょうか。</li> <li>・防犯カメラの設置補助は町会など資金が乏しい場合に助かるものであるが、設置した後に発生するランニングコストについても何らかの補助が必要と考えます。</li> <li>・市民のアンケート結果で防犯体制に関する満足度が低下している点につき、その理由を分析する必要があると思います。</li> </ul>
2	<p>No1とNo2は同じ基準値で同じ数字が記載されるなら、2つの取り組みに分けて記載する意味がなくなります。最終目的は同じで間違いはないですが、<b>取組別の基準値も必要</b>です。</p> <p>成果のところ、振り込み詐欺の件数も記載したほうがよいと思います。</p>
3	客引き対策や防犯カメラの補助等、市で課題となっていることは大変評価できます。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>地域防犯力の強化は中々成果として見えないかもしれないが、粘り強く</b>お願いしたい。また、官民共同での<b>活動が重要</b>なので、啓発活動などしっかり進めてほしい。</li> </ul>



#### 外部評価（案）

地域防犯力の強化は、具体の成果が見えづらいため、粘り強い取組の継続が必要である。施策全体の成果指標として「柏市内の刑法犯認知件数」を設定しているが、被害の対象になりやすい高齢者の人口が増加している中、数値を下げていくことは困難である。指標の見直しが必要と考える。

## 施策4 消費者の安全・安心の確保

No.	各委員からの意見・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「消費者問題解決力の高い地域社会づくり」とありますが、問題の性質から地域社会で対応するのは難しいのではないかと思います。</li> <li>・問題を未然に防ぐための活動（啓発活動）と発生してしまっからの活動（相談）にわけて、市が担当可能な範囲と市以外の機関が担当する範囲に整理して考えてはいかがでしょうか。</li> </ul>
2	No2. H29年に増えた。その原因について、記載されておらず、記したほうがよいと思います。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な詐欺被害や悪徳商法の被害が多い中で、消費生活センターの役割はますます増すと考えられる。その認知度を上げることは大変重要な活動。また、電話が通じにくいという難点もあるようなので、体制強化もしっかりお願いしたい。</li> </ul>



### 外部評価（案）

消費生活相談の件数が減少させることを目標としているが、平成29年度は前年度と比べて増加している。高齢者人口が増加している中、今回の増加をどのように捉えるべきか、原因を分析するが必要と考える。消費者問題を地域で解決することは難しいと考える。問題を未然に防ぐ取組（啓発活動）と問題が発生した後の取組（相談）など、行政と地域の役割を明確にして取り組むことも必要と考える。

(以下, 参考資料)

No.	質疑 及び 指摘
1	初年度に基準値を達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性がある。 ☞基準値は指標設定時の数値であり、目標値ではないためです。
2	「懸念」と「今後」で触られている「啓発」について、具体的な内容は何か。 ☞消費生活センターの存在や活動及び相談体制を知ってもらうための啓発活動です。啓発物の配付や地域の講座の開催等を実施しています。

気づいた点等

No.	各委員からの意見・評価
1	<p>・各施策について、それにかかるコストと利益を比較することが出来ればと考えます。特に、財源が嵩む施策については、その施策からどの程度の利益（便益）が得られるのかを考え、施策の優先順位を決定する必要はあるのではないのでしょうか。</p> <p>・懸案に対応する形で今後が記載されていないケースもありますので、両者がきちんと対応するような記載を徹底する必要があると思います。</p>
2	<p>〔感想〕資料をまとめられた職員さん、すごい大変だったと思いますが、施策を共通フォーマットで数字を持って評価する、それができたことだけでも大変な成果だと思います。民間企業でも一つ一つの仕事を数字を持って評価するのは難しいですから。</p> <p>〔全体共通意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4の数値に「-」と記載されている欄が多く見られます。実施されていないか、評価基準違いか、複数年に渡る施策なのか、どんな理由で「-」になったか 記載したほうがよいと思います。</li> <li>・H28H29、数値が明確に上がった下がった場合は、その理由をどこかで明確に記載したほうがよいと思います。取組による成果なのか？基準が異なるなど外因なのか？ 伝えたほうが、公平な評価ができます。</li> </ul>
3	<p>検討に横ぐしが刺されているか、全体最適がとられているかが、分かりにくく感じました。</p>
4	<p>まず、全体を通して柏市職員の皆様が様々な施策に取り組んでおられることに敬意を表する。施策実行に伴い、成果として認められるものについては引き続きご尽力いただきたいと思うが、果たしてそれは成果と言えるのか？と疑問を禁じ得ぬものも少なからずあった。</p> <p>その根底にあるのは、顧客（市民）目線の欠如である。施策はあくまでも市民のためのものであり、市民の不安・不満解消や喜びにつながるものでなければならない。そうした目線での資料になっていないというものが一番感じたところである。非常に違和感を感じたのは、ワークシートにある、進捗率・ものさし・基準値についてで、下記の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗率は施策が片付いている割合のようだが、「目的達成に対してどこまで進んでいるのか？」という観点が無く、手段が目的化しているように見受けられる。進捗率が100%になれば、目的が達成されるのであればそれでよいが、あくまでも目的達成のための手段であることを忘れないで頂きたい。</li> <li>・ものさしの選び方に問題があるものが散見される。例えば、1-2-1「地域と学校が一体となった教育の推進」のものさしだが、コーディネータの満足度はふさわしくないと考える。この施策は子どものためのものであるので、コーディネータの満足度は自画自賛とも言え、子どもや親・地域の評価をものさしにすべきではないのか。</li> <li>・基準値は5次総スタート時点の数字という意味か？また、基準値の設定もおかしなものがある。例えば、2-2-1「障害者の在宅生活を支える基盤整備」の指標の定義として、支給決定者数で見ているが、解決件数／相談件数と言った割合で見るべきではないか。更に基準値8人が増加する方向が望ましい書きっぷりだが、増えることが本質ではないと感じる。</li> </ul> <p>以上、いくつかの事例を交え全体評価を述べたが、市民に説明する際にも、これで十分とは言えず（敢えて言葉を選ばなければ突っ込みどころ満載なので）、再考すべきと考える。</p> <p>ただ、勘違いしてもらいたくないのは、資料を作ることが目的ではなく、あくまでもより良い市政の実行を進めて頂くことであり、いくつもの施策で大いに評価できるものもあるので、引き続き市民生活の向上に向けたご尽力に期待する。</p>
5	<p>ほとんどが初年度に基準値を達成している。既存値の追認など、指標自体または基準値が不適當の可能性はある。施策評価作業自体の客観性が問われるだろう。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務事業一覧において、各項目ごとに設定されている目標値について⇒単位が%表示の項目はよいが、実数ベースの項目は、目標値が28年度、29年度合計のもと、29年度末の状況のものが混在し、進捗がわかりづらい。</li> <li>・全体を通しての感想⇒各事務事業は担当課が中心となり、精力的に取り組んでいるものがある一方、年1回の会議を実施して目標達成率100%としているものもある。事務事業の優先順位を整理し実効性のある事業実施を希望する。</li> <li>・事務事業が目的化してしまい、それぞれが、目標を100%達成しているのに、全体として何が変わったか分からない施策が見受けられる。行政の縦割りを排除し、各課横断的に取り組める仕組み（組織）の構築・運営を検討されたい。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6つの分野それぞれの目標と関連する一つの取組・事業が、見いだせると良いのだが・・・。その視点を忘れずにいてほしい。</li> <li>・来年度はSDGs 未来都市の採択を目指してほしい。</li> <li>・会議や講座などの開催回数を評価指標としている取組が多いが、回数ではなく質を評価する指標を増やしてほしい。</li> </ul>



分野	施策		外部評価（案）
1	1	未来を担う生きる力を備えた子どもの育成	「学ぶ意欲と習慣」や「思いやり・かわりあう心」を測る「4つの力」がどのような相関関係にあるのか、あるいは図書館利用時間の増加が学習意欲等にどう結びついているのかなど、施策目的と指標の因果関係が不明確な点を指摘したい。また「いじめの認知件数に対する解消率」と「不登校児童生徒数」は指標が悪化しているため、原因を分析し、効果的な手段とするべきである。
1	2	より良い教育のための体制・環境の整備	各取組の指標について指摘したい。まず「地域と学校が一体となった教育の推進」は指標と取組進捗の因果関係に疑義があり、「教師力・学校組織力の向上」は指標そのものがわかりづらい。また、「子どもの安全確保」についての取組は、「アレルギー事故」に関する指標だけでなく、防犯や交通安全等の指標設定も検討するべきである。
1	3	子どもの育ちと子育てを支える環境の充実	「幼児教育・保育関係施設の整備」は、成果指標の「保育児童」が増加しているため、成果が無いように見えるが、「待機児童ゼロ」の達成といった成果はある。また、教育施設の整備の進展に伴い、成果指標の「指導監査における指摘事項」は増加する。一部の施策では、目的、指標、活動の関連性が見えにくいため、指標の設定を再考すべきである。「子育て仲間の有無」については、指標数値を毎年把握すべきである。
1	4	子ども及び家庭の状況に応じたきめ細かな支援の推進	「子どもの育てにくさ」では、どのような「育てにくさ」を感じているのかを分析し、行政が関与できる要因を抽出した上で有効な施策を検討することが必要である。「配慮が必要な子ども及び子育て家庭への支援」の取組は、目指す方向に変動があるものの基準値より改善している。一方で、「支援者からの相談を受けた件数」の減少を目指すことは、相談しやすい環境を作ることを目的とした場合には相反する。指標の捉え方を整理する必要がある。
2	1	健康寿命の延伸	「生活習慣病の発症・重症化の予防」は、より多岐にわたる取組効果により達成されると考えられるため、健康診断の受診割合や社会参加の割合等も指標として検討が必要である。一方で、イベント参加者等の手段が目的化する恐れがある指標は見直しをするべきである。また、「フレイル対策」の認知度向上のためには、より効果的な普及啓発が必要と考える。
2	2	医療・介護及び支援体制の充実	柏市の地域包括ケアシステムは全国トップクラスである。成果が明確になるよう指標を整理し、より多くの市民に知らしめるべきである。また、「安心して医療を受けられる体制」は、救急搬送時間の短縮だけで効果を測ろうとすると過剰対応になってしまうため、注意が必要である。
2	3	自立と支えあいの地域福祉の推進	障害者支援に関する取組が市民に浸透していない感があり、また指標の基準値に8人、30人という人数が並んでおり、極めて少ない人数を対象にした施策であるような印象を受ける。取組の内容や地域との連携の具体などについて、より効果的なアナウンスに努めるとともに、評価における指標も相談件数に占める解決件数の割合など、より本質的な尺度を用いることを検討するべきである。
3	1	魅力・吸引力の維持・強化	そごう撤退により中心市街地の吸引力が大きく低下しているため、早期に跡地利用のビジョンを示すことが必要である。また、活動の進捗率は100%であるが、歩行者通行量等の現状をを踏まえると、中心市街地の売上等を調査し、更なる取組も必要である。北部地域の定住人口の増加は当然のことと言える。住宅供給が止まった後も人口減少を食い止められるような魅力づくりと、その効果を検証できる指標が必要である。手賀沼エリアについては、周辺整備だけでなく、サイクリングロードやランニングロード等を活用した広域的視点での取組が必要である。
3	2	魅力ある産業の活躍	企業誘致における「高付加価値」の定義を明確にすべきである。また、研究機関が集積する「地の利」を活かし、東大や千葉大、産総研と連携して、ビッグデータを活用した誘致等も検討するべきである。創業支援については、創業までの期間に留まらず、創業後の事業継続のため一定の支援とそのPRが必要である。安全安心な農作物の需要は高い。ブランドイメージの強化に努めるとともに、評価指標に出荷額だけでなく自給率や農業者の所得等の要素を加えることを検討するべきである。
4	1	地域への参加と活動の促進	地域活動の活性化については、指標値の上昇から一定の成果があった評価できるものの、町会加入の促進ほか、今後に向けた方策に具体性がない。地域活動の担い手をいかに確保していくか、子どもたちの参画をどのように促していくか、具体的な方策の展開が必要である。
4	2	多様な人々が連携・分担する地域社会の形成	多様な人々の「意味ある連携」の有無が取組のカギである。「大学コンソーシアム東葛」の活動が活発であると言い難い。また、連携事業がどのように貢献しているのか効果が不明である。国際化については、事業への参加者数が指標となっているが、その後地域に溶け込んでいるかどうか、困りごとはないかどうかの追跡も必要である。男女共同参画は、女性管理職割合のほか事務事業ベースでは講座開催数が指標となっているが、市民の意識に関する指標も必要である。
4	3	地域や社会の課題に対応した生涯学習の推進	地域や社会の課題に対応した学習の支援という着眼点は良いが、意識を持った一部の市民だけでなく、誰もが気軽に参加しやすくなるような企画やPBL型（課題解決型）プログラムを増やすなどの工夫が必要である。また、図書館の推進は「知の集積地」としていかに活用するかが本質である点を指摘する。

分野	施策		外部評価（案）
4	4	誇りの持てる文化の醸成	京都、奈良といった文化都市と違い、文化資産に恵まれているとは言えない。「柏らしい文化活動」の定義を明確にし、まちづくりにどのように寄与するのかといった視点で必要性を打ち出すことが必要である。 「音楽の街」を定着させるのであれば、市立柏高校吹奏楽部関連の取組だけではインパクトがない。また、この分野の成果を測るためには、目的に掲げた市内内外の認知度を調査することも必要である。
4	5	スポーツを愛するまちの実現	スポーツ施策は、地域振興と健康づくり、双方の視点を持って展開する必要がある。また、市民の意識変容ひいては行動変容につながる方策の実施が重要である。 トップアスリート講習会は、スポーツになじみの薄い人や中高年にとって高いハードルであると感じる。より多くの方が気軽にスポーツ習慣を身につけられるような方策を実施する必要がある。
4	6	柏ブランドイメージの構築	柏市の「本当の強み」を効果的に発信することが肝要である。現状は、教育・子育て・地域包括ケア・音楽・スポーツなど多くの分野においてPRがなされているが、これらに横串が刺さっておらず、うまく連携できていないように感じられる。また、発信力が弱いと感じる。 様々な媒体を通して、他市との差別化が可能な「柏のウリ」を発信することが必要である。
5	1	豊かな自然環境づくり	施策は順調に進展しているが、「環境未来都市」を掲げた都市あることを踏まえると、「豊かな自然環境づくりに」関する取組が少ない。 街路樹の整備や調整池の緑化等はコストが嵩む面があるが、行政だけでなく、市民や民間事業者とともに、緑地や水辺空間の保全するのであれば、牽引役となって積極的に緑化に取り組むことも必要である。 また、施策の課題で手賀沼に触れているが、分野4では観光資源として捉えているため、水質浄化の啓発にとどまることなく、分野を横断した取組として、手賀沼の豊かな自然環境を活かす方策を幅広く検討すべきである。
5	2	環境負荷の低減	低炭素化とごみの排出抑制のいずれについても民間事業者へのインセンティブが必要と考える。 ごみの排出抑制は一定の成果を上げているが、「大気・水質・土壌等汚染の防止」と「適性なごみ処理の維持・改善」については、より目標達成がわかりやすい指標設定を検討すべきである。
5	3	魅力あふれる都市空間の創出	オープンスペースの充実化については、面積の確保だけでなく、木陰の創出による滞留・交流の誘発や歩いたり自転車に乗ったりすることの楽しさなど、利用面での評価も必要である。 景観については「柏らしさ」の定義を明確にして取り組むべきである。 社会問題化している「空家」は、都市空間や住環境に悪影響を及ぼすため、取組と指標設定が必要である。
5	4	安全・円滑な交通環境の確保	今後、市内の高齢化進展を考慮すると公共交通の充実が重要課題である。そのことから公共交通の利便性向上の評価には、市民目線のアクセシビリティ向上（運行本数や路線長、運賃など）といった指標も用いるべきである。 また、道路網整備は事故件数や渋滞解消などの定量評価に努めるとともに、自転車の利用に配慮した整備が必要である。
5	5	排水対策の推進	排水対策は一定の成果を上げているものと評価したい。一方で、近年多発する気象災害に鑑み、更なる推進が必要である。 なお、「まちづくり推進のための調査」の下水道に関する設問は、質問内容を再考すべきである。
5	6	安定した水道水の供給	老朽管の更新については、急速な劣化と災害リスクを念頭に置き、取組を加速させる必要がある。 なお、「まちづくり推進のための調査」の上水道に関する設問は、質問内容を再考すべきである。
6	1	防災力の向上	「地域防災力の向上」は、一定の成果を上げているものと評価したい。活動主体である町会の加入率を増加させる取組は重要であるが、「災害に備えた体制強化」では、「井戸の改修」だけでなく、情報網の整備や医療との連携等の取り組んでいる事業の指標も検討すべきである。 また「火災予防の強化」では、2年間のふりかえり（懸案）を踏まえ、火災報知器設置率の向上等の取組も検討すべきである。
6	2	健康被害の防止と安全の確保	多岐にわたる事業が展開されているが、経営資源が限られているため、選択と集中を行って成果を上げていくことも必要と考える。 個別の取組では、収容動物の救命率が改善している点を評価したいが、行政だけでなく、関係業界等に一定の負担を求めることも検討すべきである。
6	3	防犯力の向上	地域防犯力の強化は、具体の成果が見えづらいため、粘り強い取組の継続が必要である。 施策全体の成果指標として「柏市内の刑法犯認知件数」を設定しているが、被害の対象になりやすい高齢者の人口が増加している中、数値を下げていくことは困難である。指標の見直しが必要と考える。
6	4	消費者の安全・安心の確保	消費生活相談の件数が減少させることを目標としているが、平成29年度は前年度と比べて増加している。高齢者人口が増加している中、今回の増加をどのように捉えるべきか、原因を分析するが必要と考える。 消費者問題を地域で解決することは難しいと考える。問題を未然に防ぐ取組（啓発活動）と問題が発生した後の取組（相談）など、行政と地域の役割を明確にして取り組むことも必要と考える。